
大決戦!!超プリキュアオールスターズ～目覚める伝説の戦士～

ターザン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

大決戦！！超プリキュアオールスターズ〜目覚める伝説の戦士〜

【Nコード】

N4033Y

【作者名】

ターザン

【あらすじ】

1999年、プリキュアがテレビ放送を開始した。つぼみ、えりか、いつき、ゆりはプリキュアの影響で様々な夢を作る。

そしてある日、白い服を着た少年に出会う。
それが全ての始まりだった・・・

主要登場人物紹介

登場人物設定

本編とは大幅に異なります。

花咲つばみ 14歳

親もとを離れ祖母と暮らしている。少し内気だが明るい少女。将来の夢は自分の咲かせた花を沢山の人に見せる事、しかしある事が原因で諦めてしまう。異世界では伝説の戦士プリキュア・キュアブロッサム。

来海えりか 13歳

家は服屋で姉のももかはモデル。

いつもテンション高い。姉に嫉妬してるが将来の夢は姉に似合う最高の服を作る事。

異世界では伝説の戦士プリキュア・キュアマリン。

明堂院いつき 14歳

空手を習っており、将来の夢は世界一の空手家になることだが最近スランプになっている。異世界では伝説の戦士プリキュア・キュアサンシャイン。

月影ゆり 14歳

つばみ、えりか、いつきにとって姉のような存在。
成績優秀で天才と言われている。将来の夢は有名な大学に入学する

事だが天才という言葉はあまり好んでいない。

異世界では伝説の戦士プリキュア・キュアムーンライト。

美墨なぎさ 20歳

タコカフェで師匠であるアカネの所で修業をしている。

異世界では伝説の戦士プリキュア・キュアブラック。

雪城ほのか 20歳

なぎさの幼なじみ。

タコカフェの店員である。

異世界では伝説の戦士プリキュア・キュアホワイト。

九条ひかり 19歳

なぎさとほのかの幼なじみ。

タコカフェでバイトをしている。

異世界では伝説のクイーンの生命・シャイニールミナスであるが今作ではれっきとした人間である。

日向咲 20歳

両親の店パンパカパンで働いている。

異世界では伝説の戦士プリキュア・キュアブルーム（ブライト）

美翔舞 20歳

パンパカパンでアルバイトをしている、咲とは中学からの親友。

異世界では伝説の戦士プリキュア・キュアイーグレット（ウィンデ

イ)

夢原のぞみ 20歳

教育大学の生徒である、教師になるため勉学に励んでいる。
異世界では伝説の戦士プリキュア・キュアドリーム。

夏木りん 20歳

のぞみの良き親友。
アクセサリーショップ・ナッツハウスの従業員。異世界では伝説の戦士プリキュア・キュアルージュ。

春日野うらら 19歳

人気アイドル。
のぞみ達と交流がありよく悩みなどをきいてもらっている。
異世界では伝説の戦士プリキュア・キュアレモネード。

秋元こまち 21歳

のぞみ達の先輩。
少し名のある小説家である。
異世界では伝説の戦士プリキュア・キュアミント。

水無月かれん 21歳

大富豪の娘。
医療大学の学生。
こまち同様のぞみ達の先輩にあたる。

異世界では伝説の戦士プリキュア・キュアアクア。

美々野くるみ 20歳

のぞみ達の親友。

いつでも自分に自信を持っている。

ナッツハウスでりと共に働いている。

異世界では青い薔薇の戦士・ミルキイローズであり妖精ミルクだが
ひかり同様今作ではれっきとした人間である。

桃園ラブ 19歳

大人気ダンスグループ・クローバーのリーダーである。

異世界では伝説の戦士プリキュア・キュアピーチ。

蒼乃美希 19歳

モデルでありクローバーのサブリーダーである。

異世界では伝説の戦士プリキュア・キュアベリィ。

山吹祈里 19歳

獣医の玉子でありクローバーの一員である。

異世界では伝説の戦士プリキュア・キュアパイン。

東せつな 19歳

両親が事故で他界しラブと一緒に暮らしている。

クローバーの一員である。

異世界では伝説の戦士プリキュア・キュアパッションでありラビリ

ンスのイースだが今作ではれっきとした人間である。

北条響 14歳

南野奏 14歳

黒川エレン 14歳

調辺アコ 9歳

白い服を着た少年に導かれプリキュアのいる世界からやって来た。

主要登場人物紹介（後書き）

サブ登場人物紹介、本編説明の後本編に入ります。

サブ登場人物紹介

アカネ

タコカフェの店主

キリヤ

ほのかの彼氏。

異世界ではドックゾーンのダークファイブのメンバーだが今作ではれっきとした人間であり、善人である。

霧生満

霧生薫

姉妹であり咲達の親友。

異世界ではダークフォールのメンバーであり最後にプリキュア？になったが今作ではれっきとした人間である。

小々田コージ

ナッツハウスの副店長。

のぞみに恋心を抱かれているが気づいていない。

異世界ではパルミエ王国の妖精・ココだが今作ではれっきとした人間である。

夏

ナッツハウスの店長。

こまちに恋心を抱かれているが気づいていない。

異世界ではパルミエ王国の妖精・ナッツだが今作ではれっきとした人間である。

シロー

ナッツハウスの従業員。

うららの彼氏。

異世界では妖精・シロップだが今作ではれっきとした人間である。

カオル

ドーナツ屋の店主。

ミユキ

クローバーの師匠的存在である。

薫子

つぼみの祖母。

つぼみの憧れでもある。

異世界では50年前は伝説の戦士プリキュア・キュアフラワー。

その他妖精も出演

サブ登場人物紹介（後書き）

次は本編設定

本編設定

1999年『ふたりはプリキュアMAXheart』が放送。
後に『ふたりはプリキュアSS』

『YES！プリキュア5GOGO』

『フレッシュプリキュア！』

が放送されプリキュアシリーズは終了。

映画では『プリキュアオールスターズDXみんな友達奇跡の全員大集合』がロードショーされている。

物語の舞台は2011年、プリキュアはTVでしか存在しない世界。

本編で妖精だった者は元かられっきとした人間である。

本編とは大幅に設定が異なりますがご了承ください、では大決戦！
！超プリキュアオールスターズ！目覚める伝説の戦士！お楽しみください。

本編設定（後書き）

次回から物語執筆開始。

ですが受験が一週間をきつたので投稿はスローペースです。

1999年の夢

1999年…

『昔々…というのは大げさですね。

それは今未来へ羽ばたこうとしている若者が様々な夢を持ち始めた時代…』

4人の少女達が楽しそうに公園で遊んでいた。

おままごとや人形遊び…

その少女達はドーナツ屋に行った。

「カオルちゃん！！ドーナツください！！」

カオル「おっ！つぼみちゃんにえりかちゃん、いつきちゃんにゆりちゃん来てくれたんだね？」

・・・

えりか「おいしい！！」

つぼみ「やっぱりカオルちゃんのドーナツはおいしいです！」

いつき「・・・あっ！！カオルちゃん、今何時？」

カオル「今かい？今…6時ちょい前！！」

ゆり「た、大変じゃない！！」

カオル「どうしたんだい？そんなに慌てて…」

つぼみ「明日からプリキュアが始まるんです!!」

いつき「だから今日はつぼみちゃんのお家にお泊まりするの!!」

えりか「早起きしてみんなで見ろんだあ」

ゆり「早くしないと寝坊しちゃうわよ!!」

4人は慌ててつぼみの家に向かった。

カオル「プリキュア?・・・」

カオルは何故か妙に嬉しそうに屋台に戻って行った。

・・・

翌日 AM 8:25

つぼみ達「……………」

つぼみの父「おはようさん・・・な、なんだ?なんでつぼみ達TV
仰視してんだ?」

つぼみの母「始まるみたいよ、前から騒いでたやつ。」

つぼみの父「ああ、なんか騒いでたな。」

・・・

AM 8 : 2 9

つぼみ達「……………」

AM 8 : 3 0

『マックスハート！！プリ・キュア！！プリ・キュア！！』

つぼみ達「始まったあー！！」

『デュアルオーロラウェーブ！！』

いつき「スゴイ！！」

ゆり「かっこいい！！」

『プリキュア！！マーブルスクリー！！マックスウウウ！！』

『ザケンナアア！？』

えりか「やったあー！！」

つぼみ「プリキュアかっこいいですー！！」

……………

『プリキュアが初めてテレビに登場した時、私達はとても大きな夢と希望をもらいました。』

つぼみ『夢や希望を捨てなければ必ずプリキュアが来てくれます！
』

『そして私達は出会いました、白い服を着た不思議な少年に。』

えりか「見て見て！！この服の絵可愛くない？」

いつき「素敵だよ！！」

つぼみ「すごいです・・・？」

つぼみがふと横を見ると、そこには白い服の少年が立っていた。

つぼみ「あなた・・・お名前は？」

少年「・・・」

つぼみ「一緒に遊びませんか？」

少年「・・・うん。」

つぼみ達は少年と共に鬼ごっこで走り回っていた。

いつき「あつ、見て！！流れ星！！」

ゆり「そついえば今日たくさん流れ星が降るって言ってたわ。」

えりか「可愛い服を作れますように！！」

つぼみ「私の咲かせた花を沢山の人に見てもらえますように！！」

いつき「世界中の人に見てもらうの？」

つぼみ「いいえ、もっともつと沢山の人達です。プリキュアにも見てもらいます!!」

少年「・・・」

つぼみ「あなたも何か願いを言いませんか？」

つぼみがそう言つと少年は両手を組み願いを言う。

『それきり少年とは会わなくなり私達はプリキュアの夢と希望を忘れ、すっかり夢見ていたお姉さんになっていました。』

2011年…

つぼみ「ひええ!!遅刻ですう!？」

つぼみはすっかり中学2年生になり制服を着て通学路を全力疾走していた。

『タコカフェ』

つぼみ「なぎささん!!おはようございます!!」

なぎさ「あつ、おはようつぼみ!!何よまた遅刻？」

つぼみ「目覚ましが壊れてて・・・ああ時間が無い!?!では!?!」

なぎさ「がんばりなさいよ!」

ほのか「なぎさ、今の誰？」

ひかり「慌ててたみたいですが・・・」

なぎさ「ああ、つぼみよつぼみ。」

アカネ「こらなぎさ!! たこ焼き焦げてるわよ!!」

なぎさ「げげっ!? ヤバい!？」

・・・

『パンパカパン』

つぼみ「咲さん!! 舞さん!! おはようございます!!」

咲「つぼみちゃん!! これいつもの!!」

咲は袋に詰めたパンをつぼみに渡した。

つぼみ「ありがとうございます!」

舞「頑張ってね!!」

・・・

『ナッツハウス』

つぼみ「みなさん！！おはようございます！！」

ナッツハウスには久々にのぞみ、りん、うらら、こまち、かれん、くるみが揃っていた。

のぞみ「ファイトだよつぼみちゃん！！」

・・・

『公園』

つぼみ「クローバーのみなさん！！おはようございます！！」

ラブ「あっ！！つぼみちゃん！！頑張つて！！」

・・・

つぼみは汗だくで学校にたどり着いた。

つぼみ「すみません！！遅刻しま・・・した？」

しかしクラスの生徒に目もくれず窓に集まり外を見ていた。

つぼみ「あの・・・みなさん？・・・えりか、どうしたんです？」

えりか「ああ、つぼみ。空見てよ。」

つぼみ「空？・・・な、なんですかあれ！？」

・・・

別のクラスではいつきとゆりが空を見ていた。

いつき「ゆり、あれって・・・」

ゆり「ええ、蜃気楼だわ。」

空には破壊された街の風景のような蜃気楼が浮かび上がっていた。

つぼみ「・・・!!」

するとつぼみはいつの間に蜃気楼の光景と酷似した場所にいた。

つぼみ「こ、ここは・・・」

「ザケンナアア!!」

「コワイナアア!!」

つぼみ「!?!」

つぼみは不気味な雄叫びがする場所を見た、そこにはどこか懐かしい怪物がいた。

つぼみ「か、怪物!?!」

そしてつぼみの背後から眩い光が放たれた。

つぼみは振り返った。

つぼみ「プ、プリキュア?」

そこには見たことのないプリキュアがいた、そして再び光が放たれたとそこには大勢のプリキュアがいた。

つぼみ「一体・・・どうなって・・・」

大決戦！！超プリキュアオールスターズ〜目覚める伝説の戦士〜

1999年の夢（後書き）

どうでしょうか？

「パクリヤン」と思う人もいるかもしれませんがよろしく願います。

叶えなかった夢

つぼみは再び見覚えの無い場所にいた、少しさまよっていると…

???「ほのか!! ひかり!! 行くよ!!」

つぼみ「?、なぎささんにほのかさん、ひかりさん?」

「デュアルオーロラウェーブ!!」

「ルミナスシャイニングストリーム!!」

つぼみ「!!」

するとつぼみは瞬時に様々な場所に移動させられる。

「デュアルスピリチュアルパワー!!」

「プリキュア!! メタモルフォーゼ!!」

「スカイローズ・トランスレイト!!」

「チェインジ!! プリキュア・ビートアップ!!」

つぼみ「そんな…」

「あなたの思い通りにはさせない!!」

つぼみ「あ…」

.....

つぼみ「プ、プリキュアです!？」

しかし、気づけばそこはなんの変哲もないいつも通りの教室、そして授業風景が広がっていた。

つぼみの言葉に笑いが起こる。

つぼみ「あ・・・え？」

担任「花咲、遅刻のうえ居眠りとは・・・いい度胸ね？」

つぼみ「す、すみません!！」

ハハハハハハ!!

.....

『数日後、妙な蜃気楼は消え、またいつも通りの生活に戻りました、私は出身の幼稚園に花についてお話をしていました。』

つぼみ「これはひまわり、太陽に反応してその太陽の方向を向くんです。」

園児「わかんない。」

園児「ねえねえチューリップは？」

つぼみ「えつとチューリップは・・・」

園児「アサガオさんはあ？」

園児「ねえねえイチゴのお花ってどんなのお？」

つぼみは園児達に囲まれ質問の嵐だった。

つぼみ「えっと・・・その・・・あ!！」

つぼみはふと外に目を運ぶとそこには祖母・薫子がいた。

・・・

薫子「つぼみ、お疲れ様。」

つぼみ「ありがとうございます、おばあちゃん。」

薫子は缶ジュースをつぼみに渡した。

薫子「どうしたの?こんな事で疲れるようなつぼみじゃないはずよ?」

つぼみ「いえ、最近変な夢を見てしまってます。」

薫子「どんな夢？」

つぼみ「えっと・・・」

・・・

『パンパカパン』

えりか、いつき、ゆり「なぎささん達がプリキュアに!？」

つぼみ「・・・はい。」

咲「はい、新作のパン!! 4人共試食してくれるから助か・・・」

つぼみ(じー・・・)

・・・

「デュアルスピリチュアルパワー!!」

・・・

咲「どうしたの？」

つぼみ「えっ、いや・・・」

舞「ちよつと咲!?! パン焦げちゃう!?!」

咲「ああ!?! ごめんごめん!?!」

咲はキッチンに戻った。

えりか「どうしたのつぼみ？」

いつき「まさか・・・」

つぼみ「・・・咲さん達が・・・ふたりはプリキュアスプラッシュスターに変身しました。」

つぼみは少し笑いながら答えた。

えりか「プ・リ・キュ・ア　って?」

いつき「あははは!!」

つぼみ「それだけじゃないんです、ナッツハウスによく集まるのぞみさん達6人がプリキュア5gogoに・・・クローバーのラブさん達がフレッシュプリキュアに。」

ゆり「つぼみ、あなた大丈夫?」

いつき「そういえば前もプリキュアを見たって言ってたよね。」

つぼみ「確かに見たんです、TVでは一度も見事がないプリキュアの姿を。」

つぼみは不思議な空間で見たプリキュアの姿を思い出した。

つぼみ「ですが、私はそのプリキュアをよく知っている気がしたんです。」

・・・

休日、つぼみは街を歩いていた。

つぼみ「・・・?」

するとつぼみはまたしても不思議な空間にいた。

つぼみ「ま、また・・・」

ふと振り返るとそこには信じられない光景があった。暗黒に包まれた空には宇宙をも飲み込む邪悪な生命体、それに思いを込めて希望の力をぶつける女の戦士たち。

つぼみ「が、頑張ってください!!」

女の戦士たち「はあああああ!!」

邪悪な生命体「馬鹿なああああ!!」

つぼみ「や、やったあ!!」

すると

???「君だね？」

つぼみ「えっ？」

つぼみは振り返った、そこには4人の女がいた。

???「私達を応援してくれたのは。」

.....

そして気がつくにつぼみは元の空間に戻っていた。

つぼみ「今は・・・」

つぼみはふと目をやると建物ではラジオのニュースの生放送をやっていた。

アナウンサー「ではここで、日本在中のアメリカの科学者、ブンビーさんに話を伺います。ブンビーさん、先日出現した蜃気楼をどのように思われますか？」

ブンビー「そうですね、これはあくまで私の推測ですが、世界の終わりを予言させるものではないでしょうか？はい。」

つぼみ「世界の・・・終わり・・・」

つぼみは何か胸騒ぎがした。

・・・

えりか「つぼみのせいで私まで変な夢見ちゃったよ。」

つぼみ「えっ？」

えりか「私がプリキュアになるんだよ、確か名前は・・・キュアマリンだったかな。」

ゆり「あら、あなたも？」

いつき「じゃあゆりやえりかも？」

つぼみ「いつきも見たんですか!？」

いつき「僕はキュアサンシャインっていうプリキュアに変身するんだ。」

ゆり「私はキュアムーンライトっていうプリキュアになったわ。」

えりか「すごい偶然だね。」

するとつぼみが切り出した。

つぼみ「もしかして・・・偶然じゃないかもしれないですよ!！」

3人「えっ?」

つぼみ「ゆりは覚えてます?一緒にTVで見たやつですよ!！」

ゆり「もしかして、パラレルワールドの事?」

えりか「な、何それ?」

いつき「自分と全く同じ人間が違う世界で暮らしてるっていう仮説だよ。」

つぼみ「その世界ではなぎささん達はプリキュアかもしれません!えりかやいつきやゆりも!！」

しかし3人は苦笑し始めた。

ゆり「つぼみ、あなた大丈夫?」

いつき「僕たちが伝説の戦士なわけないだろ？」

えりか「そつだよ。」

つぼみ「あ・・・あははは、そうですね、所詮夢は夢ですね。」

・・・

7年前

つぼみ「どうして・・・どうして枯れてしまっんですか？」

つぼみは自分の花を咲かせるために懸命になっていた、しかしどうあがいても花は枯れてしまう。

つぼみ「夢は・・・夢だったんでしょうか。」

・・・

えりか、いつき、ゆりも同様の経験をしていた。

来海えりか

彼女はデザイナーを目指していた、モデルである姉・ももかに似合う衣装を作るために、しかし

ももか「あなたの衣装は、心がこもってない、私はその衣装は着れないわ。」

えりか「そんな・・・」

明堂院いつき

・ 小さい頃から空手を経験しており、様々な大会で優勝してきたが・

いつき「はぁ!!」

「だぁ!!」

いつき「!？」

中学生になつてからは誰にも勝てなくなっていた、自分でも空手がなんなのかわからなくなるくらい。

月影ゆり

彼女は周りから天才と言われていた。
自分でもそれを誇りに思っていたが・・・

「ゆりは本当に天才!!」

「やっぱりあの学校にいくんだろ？」

周りからかけられるプレッシャーに耐えられなかった、いつしか天才という言葉を嫌うようになった。

・
・
・
・
・
・

つぼみ（私達は夢を叶えられなかった、いや・・・叶えなかったんですよね。）

つづく

叶えなかった夢（後書き）

次回は、色んなサブキャラ登場

友人

『パンパカパン』

つぼみ達はパンパカパンで新作のパンを試食していた。

えりか「うわあ、おいしかったあ。」

すると

咲「みんな、これから時間ある？」

いつき「あ、はい。」

ゆり「どうしたんですか？」

舞「今日はお店は早仕舞い!!」

つぼみ「あ、今日はあの日ですか。」

3人「ああ、あの日ね!!」

そこに

????「咲!!舞!!」

????「久しぶり!!」

咲「満!!薫!!」

咲と舞の親友満と薫がパンパカパンを訪れた、するとぞくぞくと

なぎさ「おっすー!!」

ひかり「久しぶりです。」

舞「あれ？ほのかは？」

そして後から

ほのか「久しぶり」

???「久しぶりです。」

ほのかは彼氏であるキリヤと来た。

えりか「うわお、彼氏のキリヤさんも連れて来た、ほのかさんラブラブ」

ほのか「か、からかわないでよ!!」

キリヤ「ほのか落ち着いて。」

.....

のぞみ「パンパカパンの特製メロンパンくださあい」

りん「はしゃぐな!!」

ナッツハウスのメンバーも来た。

「???」ちよつと押すなよ!」

「うらら」良いじゃんシロー」

「こまち」お久しぶり。」

「かれん」みんな元気そうね。」

「くるみ」ふたり共早くはいりましょうよ!」

ナツハウスの店長、副店長であるコージと夏、そしてうららの彼氏シローが来た。

「コージ」いやあ、懐かしいなあ。」

夏「店内も騒がしいな。」

「.....」

ラブ「イエーイ!! 幸せゲットだよ!!」

美希「もうラブったら。」

祈里「あら?」

せつな「私達が最後?」

「???」だからもつと早くって言ったのにラブが昼寝してるから。」

ラブ「ミユキさ〜ん(涙)」

ダンスチーム・クローバーの生みの親であるミユキもラブ達と来た。

.....

メンバーが揃ったところでコージ、夏、シロー、キリヤ、満、薫、ミユキは先に出発し、残ったみなは数分後ある所へ向かった。

りん「ほのかさんはラブラブで良いなあ」

ほのか「だからからかわないですよ!!」

うらら「うわぁ、照れてます」

咲「そついうつららもシローとラブラブだよ」

うらら「当然です!!」

それを羨ましそうに見ていたのぞみとこまちに

舞「ちよつとふたり共、告白なら到着した時だよ」(小声)

のぞみ「なっ!!えっ!?!」

こまち「何を言って・・・」

かれん「あら顔が赤いわよ?」

くるみ「このチャンスを逃したらもったいないわ。」

美希「直球が大事よ。」

せつな「野球でもするの?」

ラブ「いや違うよせつな(汗)」

つぼみ「みなさん楽しそうですね。」

そこに

なぎさ「んで、つぼみは自分の夢はどっなの?」

つぼみ「夢?」

なぎさ「お花咲かせるんでしょ?」

つぼみ「いや、今は・・・休んで・・・きやつ!」?

ついこけそうになるつぼみ。

えりか「何こけてんのよ。」

いつき「動揺しすぎ。」

ゆり「まあ気持ちはわからなくもないけど。」

一同がある道にさしかかった時、その一同を睨みつける不気味な存在がいた。

???「ふふふ・・・」

不気味な存在は手から黒く小さな竜巻を起こし周辺に撒き散らした。そして竜巻は周辺の人々に危害を加えた。

「きゃああ！」

「うわぁ！？」

竜巻により吹き飛ばされる子供。

竜巻により気絶し車を暴走させる人。さらに竜巻により建物の屋上から大量の鉄パイプが落下する、その真下には集団下校する小学生達がいた。

なぎさ「危ない！？」

するとつぼみが夢でプリキュアに変身したなぎさ達がとんでもない反射神経で人々を救出に向かった。

なぎさ「ほのか！！ひかり！！」

ほのか「わかってる！！」

ひかり「はい！！」

咲「舞！」

舞「うん！！」

なぎさ、ほのか、ひかり、咲、舞は竜巻により吹き飛ばされた子供達を受け止めた。

のぞみ「みんな！！」

りん「OK!!」

うらら「はい!!」

こまち「わかったわ!!」

かれん「くるみ!!」

くるみ「当然!!」

6人は落下する鉄パイプの真下にいる小学生達を全員抱きかかえて
その場から離れる。
鉄パイプが地面に落ちコンクリートを砕く。

ラブ「みんな!!」

美希「ええ!!」

祈里「助かるって信じてる!!」

せつな「行くわよ!!」

4人は車に間一髪乗り込み運転手のシートベルトを外すが運転手は
かなり大柄でとてもどかさ事ができない、そして目の前にはどん
どん大くなる建物があった。

美希「このままじゃぶつかる!？」

ラブ「ブッキー!!せつな!!端っこで伏せて!!美希たん力貸し
て!!」

ラブと美希はハンドルを目一杯回し車を回転させ建物の衝突を回避、
変わりに近くにあった木にぶつかる、その衝撃で運転手の足がアク
セルから離れ車は止まった。間一髪運転手を含めたラブ達は無傷で
すんだ。

ラブ「し、死ぬかと思った〜・・・」

いつき「す、すごい・・・」

えりか「まじ？」

ゆり「信じられない。」

つぼみは再びあの夢とパレルワールドを思い出した。

つぼみ「夢とパレルワールド・・・本当かもしれない・・・」

・・・

騒動はあったが何とか終わり一同はあるステージが設置されたレス
トランに到着した。

「それでは！！ダンスチーム・クローバーによるダンス発表会です
！！演奏、歌はクローバーのメンバーの友人により行われます！！
ではお楽しみください！！」

キリヤ、満、薫、コージ、夏、シローは楽器で演奏を始め、なぎさ、
ほのか、ひかり、咲、舞、のぞみ、りん、うらら、こまち、かれん、
くるみは歌を歌い、クローバーはミユキと共に踊り始めた。

会場の人々「

」

つぼみ達もそのダンスに気分がノリノリである、そしてつぼみはある事を思った。

つぼみ「やっぱり・・・そんな事ないですね。」

つづく

友人（後書き）

次回ようやくあの4人登場

かつての憧れ

つぼみは再び幼稚園児に花の説明をしていた。

園児「アジサイって味がするのぉ？」

園児「ドライフラワーってなぁに？」

相変わらずの質問の嵐だった。

つぼみ「ひ、ひとりずつ・・・ひとりずつ質問を・・・？」

しかし気づくと周りには園児が消え自分一人になっていた。

つぼみ「え・・・みんなどこに・・・」

そして

「ザケンナアアア！！」

つぼみ「！！！！」

つぼみは外に出た、そこには見覚えのある巨大生物がいた。

つぼみ「か、怪物！？」

ザケンナー「ザケンナアアア！！」

つぼみ「ザ、ザケンナー！？」

ザケンナーは周辺の建物を破壊し始める。

つぼみ「きゃあ!？」

つぼみは腰が抜け動けなくなってしまった。

ザケンナー「ザケンナーアア!！」

つぼみ「ゆ、夢なら・・・早く覚めてください!！」

その時、つぼみの目の前から眩い光が発せられた。

つぼみ「えっ!？」

その光からは不思議な衣装を着た4人の少女がいた。

つぼみ「ま、まさか・・・」

「爪弾くは荒ぶる調べ!！キュアメロディー!！」

「爪弾くはたおやかな調べ!！キュアリズム!！」

つぼみ「間違いありません、あれは・・・」

「爪弾くは魂の調べ!！キュアビート!！」

「爪弾くは女神の調べ!！キュアミューズ!！」

「届け!！4人の組曲!！スイートプリキュア!！」

つぼみ「本物のプリキュア!!」

スイートプリキュアと名乗る4人の少女はザケンナーに飛びかかった。

メロディー「はぁ!!」

メロディーはザケンナーの腹を殴りつけひるんだところをリズムが飛び上がりザケンナーを蹴り倒す。

リズム「やぁ!!」

ビート「ミューズ!!」

ミューズ「うん!!」

ビートはラブギターロッドを取り出しビートソニックを放つ、ミューズはビートソニックで放たれる音符に捕まりザケンナーに近く。

ミューズ「だぁ!!」

ビートソニックの勢いでミューズの蹴りはザケンナーを直撃、かなりの距離を飛ばされた。

メロディー「一気にたたみかけるよ!!」

リズム、ビート、ミューズ「わかった!!」

4人はザケンナーに向かって再び飛びかかった。

しかし、ザケンナーは突如形を変えた。

メロディー「何!?!」

ザケンナーはナキワメーケに変身した。

つぼみ「あれはナキワメーケ・・・たしか、オーリーがフレッシュプリキュアにゲスト出演した時の・・・」

リズム「姿なんて関係ない!!」

ビート「行くわよ!!」

そのナキワメーケは膨れ上がった風呂敷に様々なお面がつけてあった。

そのお面の目が突然赤く光り衝撃波を放つ。

スイートプリキュア「きゃあああああ!?!」

スイートプリキュアは吹き飛ばされる。

つぼみ「プリキュアが・・・」

ミューズ「意外とやるわね・・・」

ビート「別方向からそれぞれ攻撃しましょう!!」

リズム「OK!!」

メロディー「いくよ!!」

メロディー達は素早く別々に別れ移動しナキワメーケを錯乱させ攻撃しようとする。

しかし、ナキワメーケはまるで全て見えているようにメロディー達をなぎ倒していく。

メロディー「くっ、なんで私達の行動が全部読まれてるの!？」

リズム「これじゃあ攻撃出来ない・・・」

ナキワメーケはプリキュアをさらに攻撃する。

スイートプリキュア「きゃあああああ!？」

つぼみ「ど、どうすれば・・・あっ!！」

つぼみはかすかな記憶を思い出した。

あの時、フレッシュプリキュアはどうやってこの危機をのりこえたのか。

メロディー「まずいよ、このままじゃ・・・」

つぼみ「怪物さん!！」

つぼみはナキワメーケを呼んだ。

リズム「あ、あれは!？」

つぼみ「今です!！」

ビート「そ、そうだ、意識があの子に行ってる間に!!」

ミューズ「一気に行こう!!」

メロディー「う、うん!!」

メロディー達は不思議な箱を取り出した。

「出でよ、全ての音の源よ。」

すると不思議な箱から翼を広げた宝石のような妖精？が現れプリキ
ュア達はその妖精？で身を包む。

メロディー「届けましょう、希望のシンフォニー!!」

「プリキュア!! スイートセッションアンサンブル・クレッシェン
ド!!」

エネルギーに身を包むプリキュア、そのままナキワメーケに直撃し
プリキュアは着地した。

「ファイナー!!」

ナキワメーケは浄化され消えた。

つばみ「やった!!...あ。」

しかし、つばみはまだ戸惑っていた、何故ならテレビの中の存在で
あるプリキュアが目の前にいるからだ。

メロディー「つぼみちゃんだよね？」

つぼみ「えっ？」

つぼみは驚いた。

何故プリキュアが自分の事を知っているのか。

つぼみ「あなたがたは誰なんですか？」

・・・

そして気がつく、と破壊された建物などが元通りになっておりいなかったはずの人々が当たり前のように歩いていた。

つぼみ「元の空間に・・・ってああ!？」

ただ違ったのは、プリキュアが元の空間にいた。
そしてプリキュアの周りには園児達がいた。

園児「かわいいお洋服だねえ!!」

園児「何でこんな格好してるのぉ？」

メロディー「えっ、あの!？」

リズム「ごめんね!!今忙しいから!!」

ビート「ちょっと引つ張らないで!？」

ミューズ「どうすんのこの状況!？」

つぼみ「た、大変です!？」

つぼみが園児達からプリキュアを引き離しとりあえず人気のない場所に来て行った。

・・・・・

プリキュアは変身を解き、元の姿に戻った。

響「本当に私達の事知らないの？」

つぼみ「はい、多分この間まで私はあなた達の世界に度々入り込んでましたが今度はあなた達が私の住む世界に迷い込んだ・・・プリキュアがいる事も驚きました。」

エレン「え・・・何故？」

つぼみ「あなた達の世界だとプリキュアは正義のヒーローとして存在してるかもしれませんが・・・この世界は違うんです、プリキュアもさっきの怪物も空想の存在で・・・物語の中にしかない世界・・・なんです。」

4人は少し残念がった表情を表した。

当然だろう、今までプリキュアはあらゆる世界を救ってきたがその正義のヒーローが存在しないというのだから。

アコ「・・・そうだ!!」

アコが何かを思い出した。

アコ「私達、不思議な気配を感じてある屋敷に行ったの。」

.....

アコ達は自分達に何があったか説明しだした。

響『そうそう、で気配を感じる方向に向かったら・・・』

奏『不思議な少年に出会ったの。』

エレン『白い服を着た少年に。』

つぼみ『白い服の少年？』

アコ『その少年に言われたの。』

（今、侵略者が僕の大事な世界を支配しようとしているんだ・・・その世界の伝説の戦士を目覚めさせ、世界を救って。）

.....

つぼみは「白い服を着た少年」という言葉に何か引っかけた。

そして伝説の戦士に匹敵した人物が頭に浮かんだ。

つぼみ「もしかしたら・・・ついてきてください！！伝説の戦士になる人物を私は知ってるかもしれません！！」

響達はつぼみの発言に驚き期待の表情を表した。

U
U
<U>

夢を捨てない者

テレビでは先日出た蜃気楼についての放送がされていた。

『タコカフェ』

ほのか「なんか不気味ね。」

ひかり「まさか世界があ蜃気楼みたいになるんじゃない？」

そこになぎさが切り出した。

なぎさ「大丈夫大丈夫、もしもの時はきっと来てくれるよ。」

なぎさはほのかとひかりの肩に手を回す。

ほのか「来てくれるって・・・」

ひかり「誰がですか？」

なぎさ「伝説の戦士ってやつ？」

そこに

つぼみ「こんにちは。」

つぼみが響達を連れてきた。

なぎさ「ああ、つぼみ・・・その子達は？」

つぼみ「じ、実は・・・」

するといきなり

響「なぎさ!!」

響がなぎさに駆け寄る。

奏「ちよつ!？」

エレン「ああ・・・」

アコ「心配事が早速・・・」

なぎさ「ちよつと、あなた誰？」

響「どうしちゃったの？いつそんな大人っぽくなっちゃったの!?
それにほのかやひかりも!!」

ほのか「大人っぽくって・・・」

ひかり「なぎささんとほのかさんは20歳ですし私は19歳で・・・」

響「ええ!？」

つぼみが響を掴みだした。

つぼみ「すみませんなぎささん!!知り合いになぎささん達と瓜二

つの人達がいるらしくて・・・次、行きましょうか・・・」

なぎさ「ち、ちょっと引つ張ら・・・」

なぎさ達はただ啞然とするしかなかった。

・・・

『パンパカパン』

響「咲！舞！！」

つぼみ「ちよっ・・・」

咲「え・・・と・・・」

舞「どちらさまですか？」

響「何言ってるのさ！！私の顔を良く見て！！」

咲、舞「・・・」

響がどんな決め顔をして当然咲と舞にはわからない。

・・・

『ナッツハウス』

コージ「りん、また新作かい？」

りん「はい、急にインスピレーションが働いて…」

のぞみ「すっごい!!」

うらら「そのアクセサリー、私の今度のライブで付けたいです!!」

夏「何を言ってるんだ、店の商品だぞ？」

りん「大丈夫ですよ、何個か作るので…」

こまち「あら？あれはつばみさん？」

かれん「そうね、一緒にいる人達はお友達かしら？」

くるみ「妙に落ち込んでるけど？」

こまちは知らない4人と話しているつばみを見つけた。
そして

シロー「おい、何やってんだ？」

つばみ「良いですね、今度は慎重に・・・あ、シローさ・・・」

だがやはり恐れていた事が起こった。

響「シロップ!!」

シロー「な、なんだよ、ていうかシロップって何だよ!？」

のぞみ「どうしたの？」

のぞみ達がナッツハウスから出てきた。

響「うわぁ！？み、みんながお、大人に…」

奏とエレンが必死に響の口を押さえた。

アコ「呆れた。」

つぼみ「はぁ…」

．．．．．

『公園』

響「ラブ！？みんな揃って大人！？」

公園でダンスの練習をしているクローバーを見つけた響。

ミュキ「ラブ、知り合い？」

ラブ「む．．．．」

ラブは響をじっと凝視し…

ラブ「わかんない！！」

つぼみ「（やっぱし…）し、失礼しました！！」

つぼみは響を引っ張り出した。

響「私だよ！！メロディーの響だよー！！」

.....

響「なぎさや咲、のぞみやラブは勇敢なプリキュアだよー！！でも……」

奏「この世界じゃ…普通の人だったね。」

エレン「伝説の戦士はわかったけど目覚めさせる方法がわかんないわね。」

アコ「響の取り乱す気持ちは確かにわからなくはないけどね。」

するとつぼみが

つぼみ「だ、大丈夫ですよ…あの人達はこの世界でも憧れられる存在ですから。……夢を捨てないというか……いつまでも希望を持ち続けてるといーうか……だからきつと大丈夫ですよー！！」

響「つぼみ……やっぱりどの世界のつぼみもかわんないね。」

つぼみ「どーという事ですか？」

響「つぼみも私達の世界だと……！？」

響達は妙な気配を感じ取った。

つぼみ「どーしたんで……！？」

すると町には黒い竜巻が発生していた。

つづく

生きた死

黒い竜巻は消えたと同時に怪物が現れた。

つぼみ「怪物！・・・確か・・・あれはウザイナー！！」

ウザイナー「ウザイナー！！」

ウザイナーは街を破壊し始める。

人々「うわああああ！！？」

つぼみ「でもどうして！？私達の住む世界に・・・本物の怪物はいないはずなのに！？」

響「きっと、何かが呼び寄せたんだよ。」

奏「その何かがこの世界を滅ぼそうとしてるんだわ。」

ウザイナーは次々に街を破壊していく。

エレン「このままじゃ街の人々が危ないわ！！」

アコ「戦わないと！！」

つぼみ「い、いくんですね？」

響「うん！！」

すると

「????「みんニヤ」!」

奏「あれ、ハミィ!」

響達の妖精・ハミィがこちらに近づいてくる。

つぼみ「よ、妖精!」

ハミィ「はニヤ?つぼみかニヤ?」

エレン「今はそれどころじゃないでしょ!?!今までどこに行ったたのよ!」

ハミィ「セイレーン達とは違うところに飛ばされてたニヤ。」

アコ「もう今は良いでしょ!?!変身よ変身!」

響達は慌ててキュアモジュールを取り出した。

そしてキュアモジュールにフェアリートーンと呼ばれる宝石型の妖精がはめ込まれる。

「レッツプレイ!!プリキュア・モジュレーション!!」

4人は4色の衣に包まれ姿を変えた。

メロディー「爪弾くは荒ぶる調べ!!キュアメロディー!!」

リズム「爪弾くはたおやかな調べ!!キュアリズム!!」

ビート「爪弾くは魂の調べ！！キュアビート！！」

ミューズ「爪弾くは女神の調べ！！キュアミューズ！！」

「届け！！4人の組曲！！スイートプリキュア！！」

メロディー達はウザイナーを押し倒す。

そして建物の屋上に着地し身構える。

・・・

その光景はテレビで生中継されていた。

キャスター「信じられない光景です、突如巨大生物と不思議な衣装を着た少女達が現れ戦っています。これは過去にテレビ放送されたプリキュアに酷似しています。」

『タコカフェ』

ほのか「怪物に・・・」

ひかり「女の子？」

なぎさ「一体何が起こってるの？」

・・・

ビート「はっ！！」

ビートはウザイナーの腕を蹴りつける。

ミュージズ「ええい!!」

ミュージズはウザイナーのもう片方の腕を蹴りつける。

メロディー「リズム!! 一気に決めるよ!!」

リズム「OK!!」

メロディーとリズムは必殺技の体勢にはいる。
しかし

ウザイナー「ウザイナアアア!!」

ウザイナーは口から光線を放った。

メロディー「ええ!!」

リズム「きゃあ!!」

メロディーとリズムは吹き飛ばされた。

そしてビートとミュージズはウザイナーに掴まれてしまった。

ビート「きゃあ!!」

ミュージズ「うう!!」

ハミィ「だだだだ大ピンチだニャアアア!!」

つぼみ「このままじゃ・・・」

ウザイナーはビートとミューズを掴みながら辺りを破壊していく。

・・・

えりか「ちよつと何なのよあれ!？」

いつき「えりか落ち着いて!!」

ゆり「今は逃げる事が優先よ!!」

しかし破壊された建物がえりか達に落ちてきた。

えりか「うわあああ!？」

えりか達はそれを何とか回避、避難所に向かう。

いつき「つぼみはこんな時に何を・・・」

ゆり「つぼみなら一人でも大丈夫!!」

・・・

『ナッツハウス』

のぞみ「コ、コージさんは!？」

うすら「さっきアクセサリーの材料を買いにお店へ!!」

シロー「その店って確か!？」

こまち「今怪物が暴れてる所の近くよ!！」

のぞみ「わ、私行ってくる!！」

りん「ちよつとのぞみ!？」

.....

その頃コージは店を出て避難するところだった。

????「うわあ!？」

コージ「!！」

コージの後ろでは足をくじいた老人が倒れていた。

コージはその老人に駆け寄る。

コージ「大丈夫ですか!？」

しかし、その時ウザイナーは建物を破壊しコージ目掛けて瓦礫が落ちる。

コージ「うわあああ!？」

コージは必死に老人に覆い被さる。

.....

ビート「いい加減に・・・」

ミューズ「してー!!」

ビートとミューズはウザイナーの腕を振りほどき蹴り飛ばした。

ビート「メロディー!!リズム!!」

メロディー「わかった!!」

リズム「いくわよ!!」

ウザイナーは光線をメロディーとリズムに放つがメロディーとリズムは軽快なステップを踏み手をつないで突き出す。

メロディー・リズム「プリキュア!!パッショナート・ハーモニー!!」

パッショナート・ハーモニーにより光線は相殺された。

ミューズ「一気に決めよう!!」

4人はヒーリングチェストを使った。

「出でよと全ての音の源よ・・・」

ヒーリングチェストからクレッシェンド・トーンが飛び出した。

メロディー「届けましょう、希望のシンフォニー!!」

「プリキュア！！スイートセッション・アンサンブル！！」

スイートプリキュアは光をまといウザイナーを貫く。

「フィナーレ！！」

ウザイナーは浄化され消えた。

つぼみ「や、やった！！」

しかし

???「あらあら、やっぱりこの世界にも来たのね。」

つぼみ「えっ！？」

つぼみは振り返った、そこには蛇のような髪の毛をした女が立っていた。

つぼみ「ア、アナコンディ！？」

メロディー「つぼみ！！」

メロディー達がつぼみの所へ駆けつける。

アナコンディ「邪魔だ。」

つぼみ「み、皆さん！！目を閉じてください！？」

リズム「えっ・・・」

ビート「あれ・・・体が動かない・・・!？」

ミューズ「うそ・・・」

メロディー「か、体が石に!？」

アナコンディの目は相手を石化する力を持っているのだ。

メロディー「た、助け・・・」

そしてスイートプリキュアは4人共完全に石化してしまった。

ハミィ「ニヤんとお!？」

アナコンディ「貴様も邪魔になるな。」

ハミィ「ニヤあ!？」

アナコンディはハミィも石化させた。

つぼみ「ス、スイートプリキュアが・・・」

アナコンディ「プリキュア、お前達は生きたまま死ぬ・・・お前は
この世界の人間か？」

つぼみ「!！」

つぼみは腰が抜け座り込んでしまった。

アナコンディ「弱い人間など興味は無い、せいぜい滅びの時まで怯えるがいい。」

アナコンディは姿を消した。

つづく

決意

スイートプリキュアが石化された日の夜、病院にコージが運ばれた事を聞きつけたつぼみは病院に向かった。

『病院』

つぼみ「皆さん!!」

そこにはナッツハウスのメンバーの一部がいた。

りん「つぼみ・・・」

つぼみ「コージさんは!？」

シロー「この病室にいる。」

うらら「のぞみさんもいます。」

・・・

つぼみは病室に入った。

そこにはコージの手を握りしめて何かを願うのぞみ、その様子を見る夏がいた。

つぼみ「のぞみさん・・・」

夏がつぼみの耳元で囁いた。

夏「足をくじいた高齢者を助けて瓦礫の下になつたらしい・・・かれんが何とか応急処置を施して高齢者は助かったが・・・コージは意識がない。」

つぼみ「そんな・・・」

するとのぞみは

のぞみ「私・・・駆けつけたのに・・・何もできなかった。」

つぼみ「のぞみさんのせいじゃ・・・」

のぞみ「守れなかった・・・私は・・・好きな人を守れなかった・・・」

つぼみ「・・・」

・・・

つぼみは病室から出た。

こまち「どう・・・だった？」

つぼみは頭を横に振る。

かれん「そう・・・」

くるみ「コージさん・・・」

・・・

つぼみは病院を出たが激しい雨が降っていた。

つぼみは雨にうたれながら石化したスイートプリキュアの所にいた。

つぼみ「教えて・・・ください・・・プリキュア。」

メロディー「・・・・・・・・」

リズム「・・・・・・・・」

ビート「・・・・・・・・」

ミューズ「・・・・・・・・」

ハミィ「・・・・・・・・」

つぼみ「伝説の戦士を目覚めさせるには・・・どうすればいいんですか？」

しかしプリキュアはもちろん答える事ができない。
するとつぼみは背後に気配を感じ振り返った。

そこには白い服を着た少年がいた、その姿は何故か消えかかっていた。

つぼみ「・・・誰ですか？」

少年「やっぱり・・・忘れてしまったんだね。」

つぼみには少年の言葉が理解出来なかった。

少年「このままでは世界はあいつらの物になってしまい・・・プリキュアの希望と夢が消え・・・僕も消えてしまう・・・早く思い出して。」

つぼみ「何を思い出せばいいんですか！？あなたは一体誰何ですか！？」

すると少年の姿は完全に消えてしまった。

つぼみ「待つてください！！」

つぼみは雨にうたれながらどうすれば良いか考えていた。

つぼみ「・・・」

そして何かを決意した。

・・・

えりか「また夢の話？」

翌日、つぼみは片っ端から自分の言うことを信じてくれる人にあの夢の話をした。

えりかはウザイナーが暴れたせいで服屋である家の中がめちゃくちゃになっていた。

つぼみ「本当かもしれないです！！えりかはプリキュアかもしれないんです！！だから・・・」

えりか「つぼみ、今はそんな冗談に付き合ってる暇はないから。」

えりかはそう言った。

つぼみ「・・・」

・・・

いつき「つぼみ、君が羨ましいよ・・・こんな時までそんな夢を捨てないなんてさ。」

つぼみ「信じて・・・くれないんですか？」

いつき「ごめん。」

・・・

つぼみ「ゆりならわかってくれますよね！？パラレルワールドは本当にあつて・・・」

ゆり「つぼみ、悪いけれど・・・信じる事はできないわ。」

つぼみ「ゆりまで・・・」

・・・

薫子「伝説の戦士？」

つぼみ「はい、なぎささん達やえりか達も・・・」

つぼみは祖母の薫子にしかもはや信じてもらえないと思った。

つぼみ「おばあちゃんなら信じて・・・くれま・・・」

しかし

薫子「何を言っているの？」

つぼみ「えっ？」

薫子「何故今になってそんな夢みたいな話？」

つぼみ「夢って・・・夢じゃなく本当かもしれない・・・」

薫子「つぼみ、あなた少し強引なんじゃない？」

つぼみ「う、強引・・・？」

薫子「あの時は、自分で夢を諦めたんじゃないの？」

・・・

つぼみ「私・・・やっぱりおばあちゃんと一緒に暮らします。」

薫子「・・・」

・・・

薫子「あなたは夢を諦めた・・・いつしか努力する事を忘れてしまった・・・そして今度は夢を他の人に押し付けている。」

薫子の言葉に何も言えないつぼみ。

そして

つぼみ「確かに・・・私は夢を諦めました・・・強引かもしれないけど、でも、これだけは本気です・・・信じてほしいという気持ちは本物です！！見ててください！！」

つぼみはそう言つと走り去つていった。

・・・

街が混乱している中、突如地震のような物が発生した。
それはどんどん大きくなる。
そして地面から怪物が現れた。

???「ネガトーン！！」

さらに上空からも怪物が現れた。

???「ホシイナー！！」

その2体の怪物は街を破壊し始めた。

つづく

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4033y/>

大決戦!!超プリキュアオールスターズ～目覚める伝説の戦士～

2011年11月23日15時54分発行